

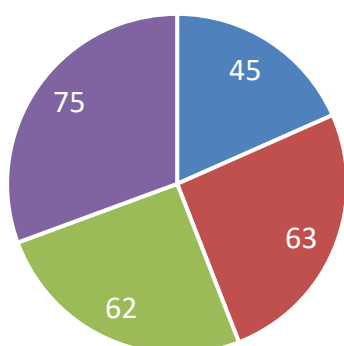
卒業生追跡調査の結果報告(2020年度)

島根大学では、2016年より、卒業生の皆様方を対象に、大学での経験や現在の島根大学等への評価をお伺いするアンケートを始めました。

5年目となる今回は、247名の方から返信をいただき、母校への期待を感じたところです。今回、アンケート調査の結果を報告いたします。

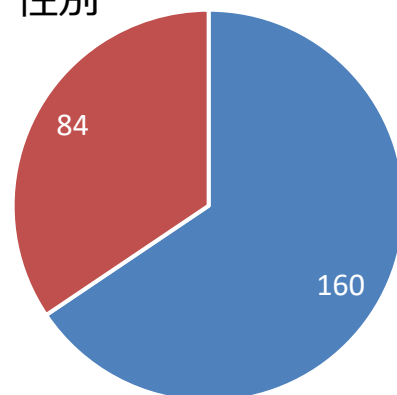
プロフィールと現在の生活・仕事

1. 年齢



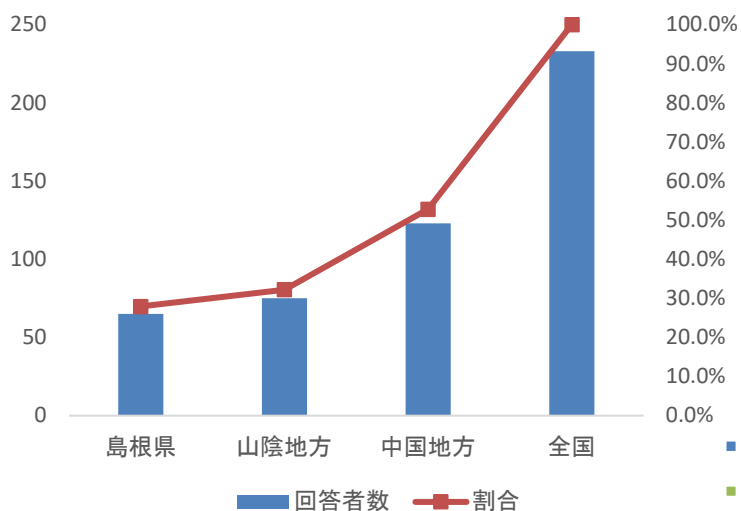
■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代

2. 性別



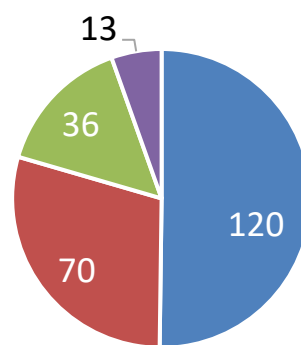
■ 男 ■ 女

3. 現在の居住地



→卒業生は、島根県を基盤にしつつ、全国で活躍しています。

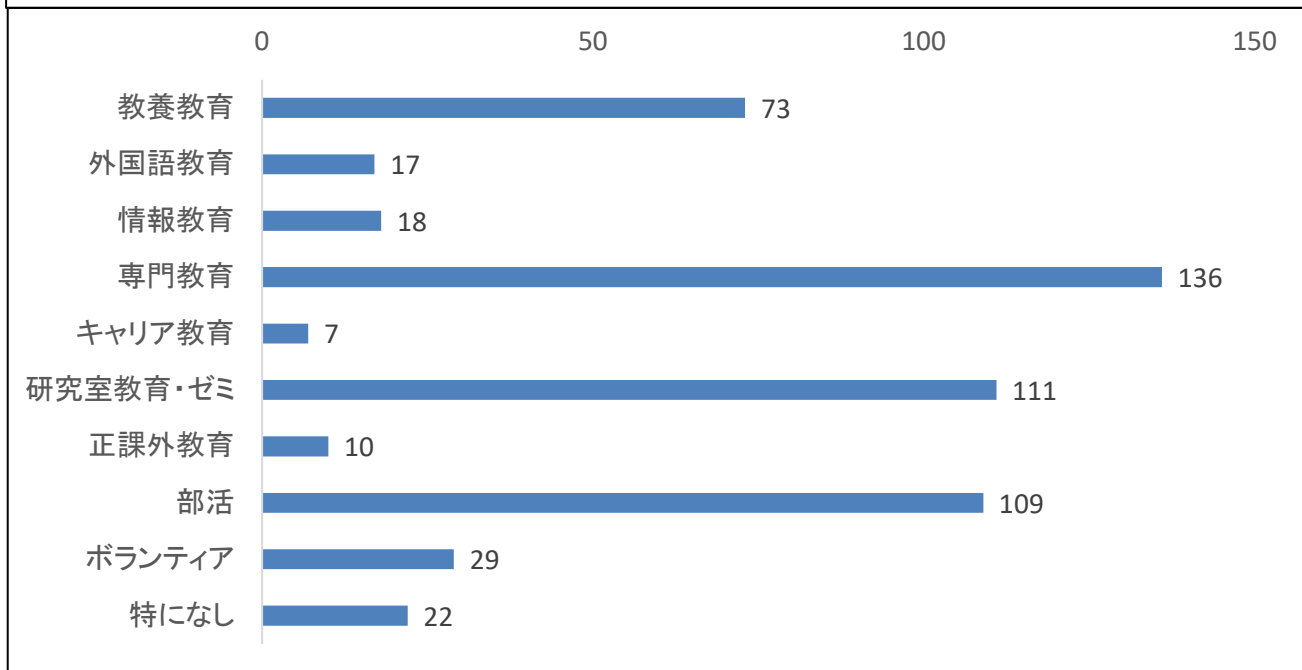
4. 島大での学びと仕事



■ 役に立っている ■ どちらかという役に立っている
■ どちらかという役にたっていない ■ 役にたっていない

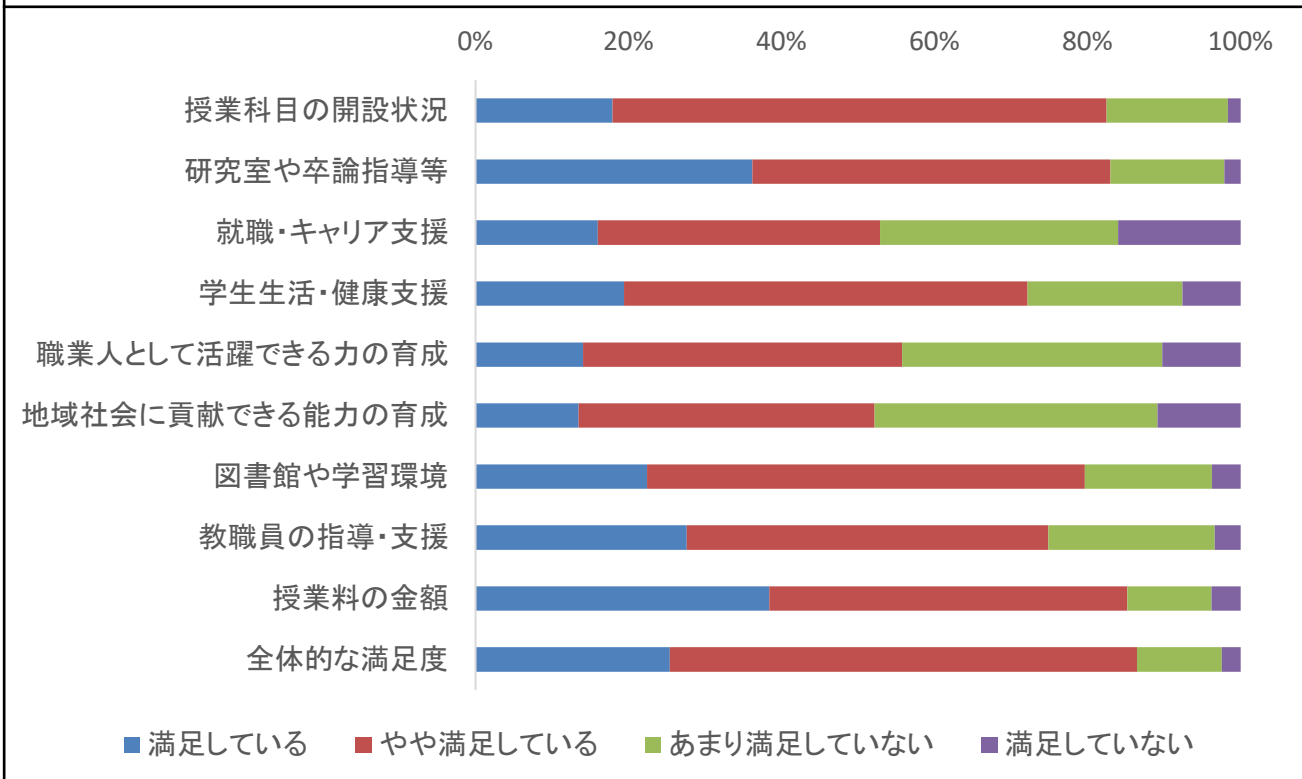
→およそ8割の卒業生は島根大学での学びが仕事に役立っていると認識しています。

5. 有益であると感じた島根大学での学び



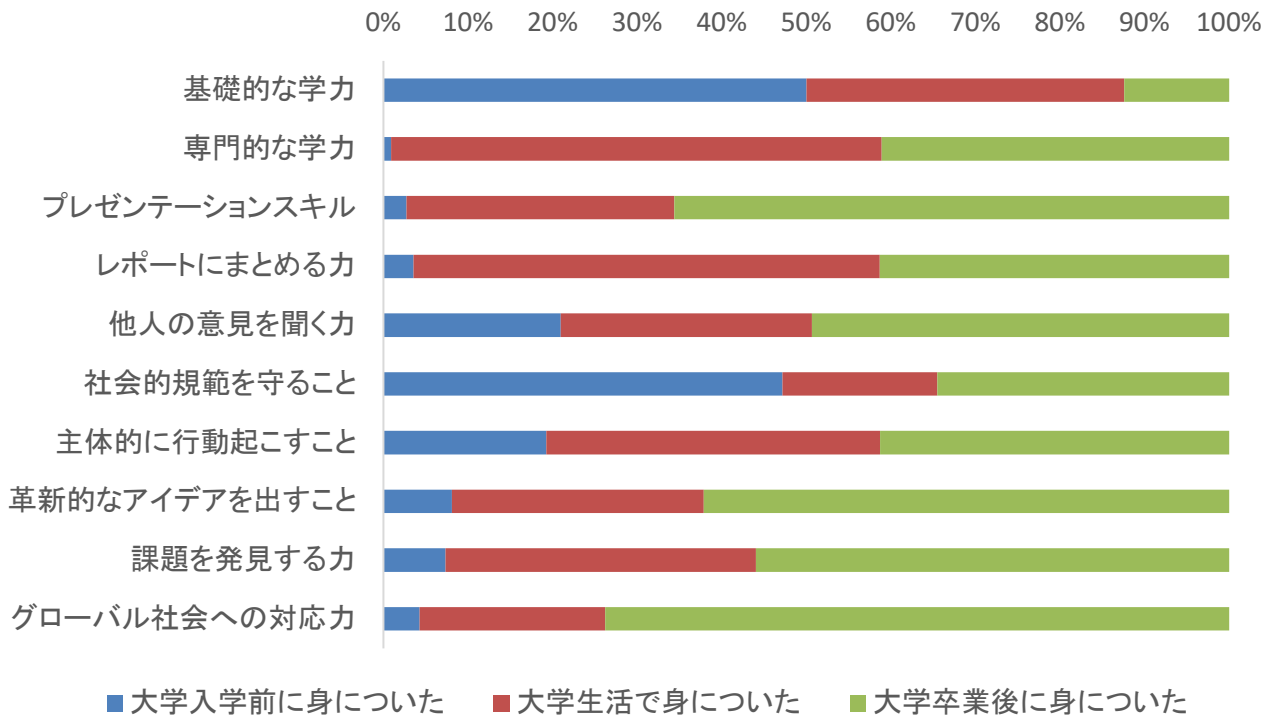
→島根大学の学びについて、正課教育では専門教育や研究室教育が、正課外教育では部活動が有益であったと認識しています。

6. 島根大学在籍時の満足度



→島根大学在籍時の満足度は総じて高いようです。島根大学は、学習の場として高く評価をされているようです。

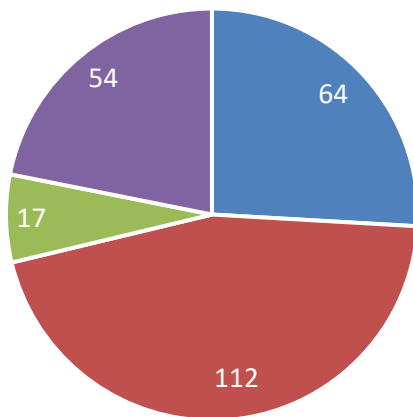
7. 島根大学で身に付けた力



→島根大時代に身に付けた力としては、「専門的な学力」や「レポートにまとめる力」が高く評価されています。

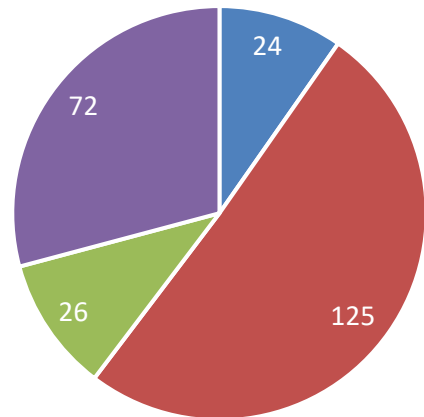
8. 島根大学との交流

教職員・同窓生との交流



- 同級生・教職員と交流がある
- 同窓生とのみ交流がある
- 教職員とのみ交流がある
- 交流はない

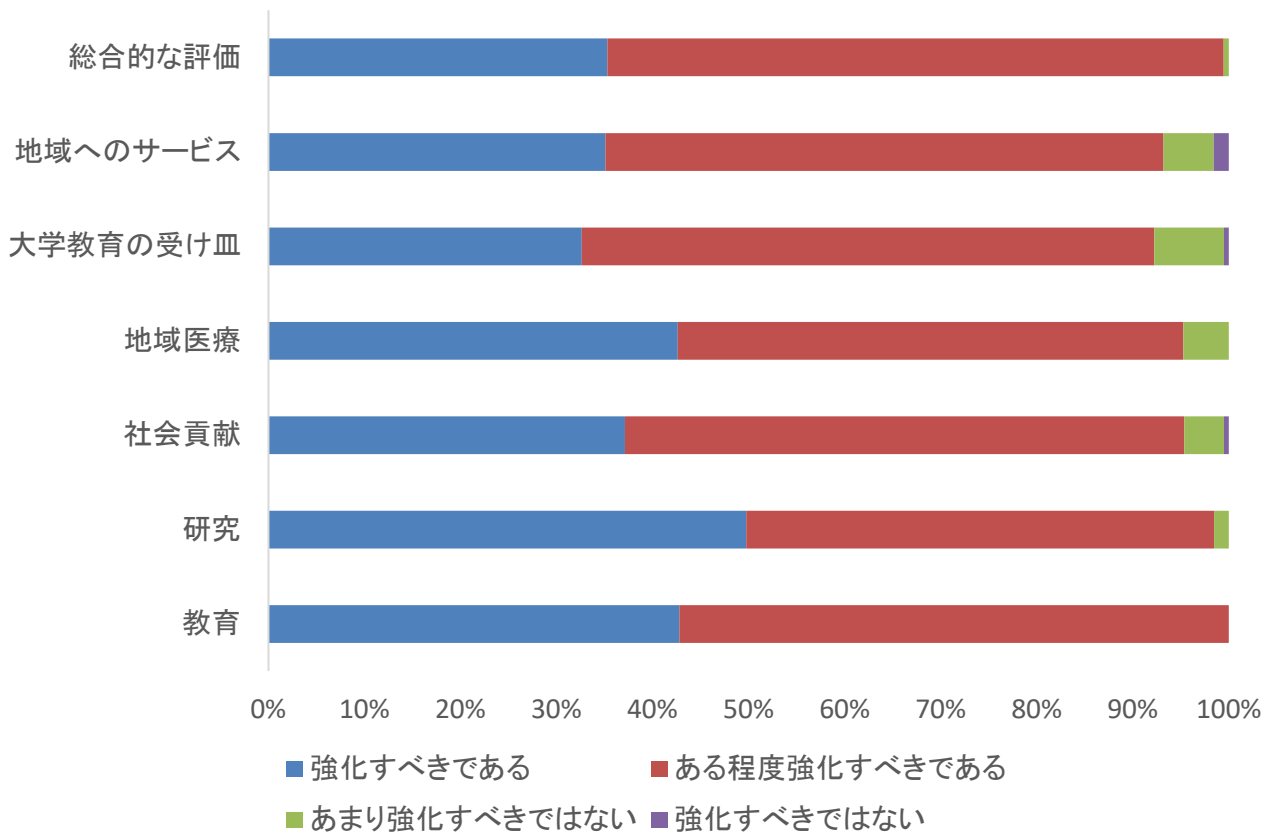
島根大学への訪問



- 個人的に訪問・大学行事での訪問両方
- 個人的に訪問のみ
- 大学行事で訪問のみ
- 訪問の経験は無い

→多くの人が、島根大学時代の人間関係を維持しており、かつ島根大学へ訪問しています。

9. 島根大学に対する期待



→全ての項目において強化すべきとの声をいただきました。教育・研究の拠点だけではなく、地域医療や社会貢献を通して等、様々な形での貢献が期待されています。島根大学への強い期待が感じられます。

10. 評価の低かった項目について

評価の低かった外国語教育、情報教育、キャリア教育については、次のような対応を行い改善につなげています。

【外国語教育】

令和3年度に策定した外国語教育グランドデザイン（素案）を教学会議、教学マネジメント委員会（全学共通教育小委員会）に諮って意見調整し、全学共通教育・専門教育を通じた外国語能力向上に向けて、より具体的な実施計画を策定する予定になっています。なお、全学共通教育における英語教育については、令和4年度より、英語4技能をバランスよく伸ばすための新しい英語教育プログラムをスタートさせています。

【情報教育】

文系・理系を問わず全学部の学生に対してデータサイエンスに関するリテラシーの醸成に向けて令和3年度から数理・データサイエンスを全学で必修化しました。

また、特別副専攻プログラムとして「Ruby・OSS 履修プログラム（8単位）」「数理・データサイエンス基礎プログラム（8単位）」「数理・データサイエンス専門プログラム（16単位）」を開設し、プログラミングや数理・データサイエンスに関する学修を通じて高度な人材を育成するプログラムを展開しています。

【キャリア教育】

すべての島根大学生が所属学部で身につける「高度で実践的な専門性」を社会で活かしていくために、「社会の変化に対応する能力」及び「生涯にわたり学び続けるための基礎的・汎用的能力や教養」を身につけることを目的として、特別副専攻プログラム「キャリアデザインプログラム（8単位）」を実施しています。